



連歌(四)て小を丸
 連歌提要切符

伊地知文庫
 文庫20
 239



連部

文庫20
239

連物提子切付
目本

伊地知氏書冊

一
艸の歌



秋とてもさるのやハ持てて月とて
言抄艸の歌とて 玄仍秘抄同とて

美夏のうゝまの浪の玉屋哉 宗御
晴しぬ月のかゝり木陰哉 頼高
咲都ハ叶とてぬ山の浦を哉

是の歌を玉屋彦々木陰の浦を
皆詠てそとて下のみ持とて
依し保のり付んかゝり
うきやう

一 詠まぬ句法

二 斬侍の如きもの金尾のあやわし

新巳抄云斬侍の如きあやわしと服あは
見えきて宗鶴の金尾と詠ひ侍の
事更よしのれあはるは是亦也か
ふのる詠ん

三 詠まぬ句法

きつ神々々々山吹の白ひ哉 袂

四 詠まぬ句法
白くそひくまきしとらりけは信
用 是へはけ白ひ詠まぬの字より
抑ておと詠まぬ

花盛もれさるる日ねかな 長

是も詠まぬ句法とて一字より毎へ合せ
て詠まぬゆきも是も是もね日男は
詠まぬ

詠まぬのり果ハ詠まぬの句法 巳

是はも字より拍くく新ひりも
新ひりもれもめの向後の姓をこの業と
法定はるる

一字より新切る切車

新ひりもれも花は槁花、秋の44
ゆりもれも人比は花形、小高、指

是は理互のてあはるれ、切車、

44の花は枯るる花は葉の花をいん

とらふらと新ひりもれも

ゆりもれもれもれもれもれもれも

いはちりもれも

花をいん秋葉をいん昔村人

是は花をいん秋葉をいん昔村人
未だもれもれもれもれもれもれも
はるるはるるはるるはるるはるる

の 而能別切

麻のきとらふらと麻の秋は山車順

ゆりもれもれもれもれもれもれも

是はのれもれも麻のきとらふらと

新ひりもれもれもれもれもれも

ゆりもれもれもれもれもれもれも

ゆりもれもれもれもれもれもれも

決互のてあはるれもれもれも

の中よ海さしあふも

ふさし海さしあふも ねんねん

ねんねんねんねんねんねん

物人の入神さあともあふも

ねんねんねんねんねんねん

又 佛のうらまをさるるせんとし 普 玄的

佛のうらまをさるるせんとし あり

人のいふまをさるるせんとし

是に本おの上りなり 普 玄的 他
あるまをさるるせんとし ねんねん
多しといふまをさるるせんとし

佛のうらまをさるるせんとし 普 玄的
ねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねん

ねん

佛のうらまをさるるせんとし 普 玄的
ねんねんねんねんねんねん

ねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねん
ねんねんねんねんねんねん

てあつしきししししししししし
てあつししししししししししし
あししししししししししししし

とまた切字の尻をり体

きししししししししししししし

けりしししししししししししし
あししししししししししししし
あししししししししししししし
古今のまらししししししししし
口車し

神垣はゆりてくしししししし

是れしししししししししししし
と入てんししし
まの秘抄とけ奈りの信をうて
くししししししししししししし
らししししししししししししし
け体はるなりし

清信撰定まの

秋しししししししししししし

牛田の妻の毛のりしし

けあしししししししししししし

足るに後方の事

をみるに 一巻

松尾もや 社 松尾の事 社

懐四千字の事

をみるに 社 松尾の事 社

けし 社 松尾の事 社

し 社 松尾の事 社

合 社 松尾の事 社

字の 社 松尾の事 社

神云松尾の事 社

と 社 松尾の事 社

也 社 松尾の事 社

や 社 松尾の事 社

巴白 社 松尾の事 社

と 社 松尾の事 社

せ 社 松尾の事 社

と 社 松尾の事 社

と 社 松尾の事 社

并強

を 社 松尾の事 社

ん 社 松尾の事 社

をまじりしりしをまじりしりし
る文に多し人の世にまじりし
く一の世にまじりしりし上りの
ゆふこ

新言

うらぐの世のまじりしりし
んまじりしりしりしりしりし

秋のまじりしりしりしりし

又りのまじりし

物まじりしりしりしりしりし
あまれのまじりしりしりし

まじりしりしりしりしりし
ぬまじりしりしりしりしりし
あまり又まじりしりしりし
まじりしりしりしりし

ハ 玄妙のまじりしりしりしりし

お白く嵐やまじりしりしりし
名まじりしりしりしりしりし
風まじりしりしりしりしりし

け捨或しりしりしりしりし

漢語に考みりねむる事

社

けあぬる事新の物事あり

社

神事とていふ事あり

神も是れいふ事あり

いふ事あり

いふ事あり

いふ事あり

并級祭句の事あり

細澤といふ事あり

十名を傳へし事

小田かす岸の事あり

社

のころる候と極まりあり

社

休ねる候と名るの事あり

いふ事あり

十一 申す事あり

けや、字の上より八九月より

み月より

能合

又おれや嵐の事あり

又阿品抄より

秋の節もあや月あてり

岩や林原もさるうねり

きしし中もあわれのあさうらあまの
まふの負もあかりのあまの

又白紙のまのたにのまのあまの

あや荒れまのあまのあまの

さる物のまのまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

まのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

二三 のあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

万八

あまのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

玉新五

あまのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

あまのまのあまのあまのあまの

ま 枅のらん

ゆりまを徳よ早ま海し

是ハ神宗の早し御也と服あひし
定て法定しつる事とあはれ依て
さしめらんと名けつる事
徳云化あふ目らんしとらふ

音城を——高れ清し

是もあつし此のまをくはゆふ
ゆりし服あはれしとらふ海を
とらふしつる事
此のまをくはゆふの清しとらふ

是ハつあをくはゆふの清しとらふ
つあをくはゆふの清しとらふ
久しあをくはゆふの清しとらふ
とらふしつる事

け指成し世宗あをくはゆふの清し
ゆりまを徳よ早ま海し
とらふしつる事

昔風の清しとらふの清し
秋風ゆりしとらふの清し

け指成し世宗あをくはゆふの清し

前よけ指多し〜凡般のてふあそり〜
〜してゐる事物等の及ぶ境り
あ〜

言指：忠係〜してゐる句とら〜
〜してゐる月けり又〜してゐる
〜してゐる推考の〜してゐる
又或指：目〜してゐる 名目

百 二のり〜

〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる

しれ般の〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる

其の社の句を〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる
〜してゐる〜してゐる〜してゐる

よ下句ても有り

歳々少くは花ハのこりて

け新大屋し押入てるの推り
但大くまうはまゝの御もさる
当の只いふもねを信てる
あるハんと申す句法さうよ
何の御もまゝ

新のまゝもさる

是ハ新の初ねんもさる
かゝねんもさる
もさる

是ハ新の初ねんもさる
よの御もさる

日暮れハ新の初ねんもさる
の御もさる

新の御もさる
御もさる

御の御もさる
の御もさる

御の御もさる
御の御もさる
御の御もさる
御の御もさる

下句やうなり

あれはなるるに持成り
流る神ふも流るるなり

お清、目やけお慈とておとこ
上の七あらのまこと七あらのま
二あふふあふまをておとこ
お合わ何ハす魚うんはあひ
あひ

今事んと流りしやまをうて
新らあふまをておとこ

けれは但あふらゆま。句法おとこ
何のうへゆまをうておとこ
ゆまをうておとこ
まも一句こらあふらゆま
おとこをうて

并流

お清のめけられも大原千句成り

聖王高院道澄法親王

流るるも流るるも流るるも

け法句全辨お慈の物を並へてお又
字のまをてあひゆまをて
やうこけ体是映るるへ
流る神ふも流るるなり

流るるも流るるも流るるも

尤句作をくし一様式よりあて括と
らるねしり可ぬし

を 見ゆる

しゆるの句に上りりし
てるるしれつこく字定法
をウクスツムユル五音中より
ちしてあそめんと見し字を
ておく理を傳ふ

括をゆの毎のゆるゆる
同のゆるゆるゆるゆる
ゆるゆるゆるゆるゆる

てゆるゆるゆるゆるゆる
ゆ

はゆ中ゆはゆゆしゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ

能指ゆとゆ被ゆれゆゆのゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ

きしゆゆゆゆゆゆゆゆ
又ゆも連ゆゆ定法ゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ

と仰り此をこころおしめしむるに
能るるなり

百七

於石苗維生

百十

於妹

けね多し

可 咲をくりし事

是のつれなきをねーあぬ

けそりハ量々の量ハうきりみ

ん(在る量之は)ききとのめを

うきりまけ咲りまきりまきり

めりまきりまきり

言家のお集りまきりまきり

本

をまきりまきりまきり

ちりまきりまきりまきり

けりりまきり

二 四道之事

四道奥儀口傳云 流

或相應ト云

從引離離に云

逆を口と四道とらひて連歌のけね

句作の極原とあるをてけねまきり

かみまきりまきりまきり

カ之有文無文と付る体

多行の事ありては人

破心や子親なる浦ふまて

袖云前月無文なる句なるに下也と

いひしことありてせむら付る

破心の事ありて

奇蹟とせと下知してりあ時之者

文と依て破心の事ありてあを

文より付るしてて破心と又

すは文より破心とありて

ては文よりありて



